



がん哲学外来市民学会

Cancer Philosophy Clinic Association for the People

第6回

がん哲学外来市民学会認定コーディネーター アドバンスコース ニュースレター

市民学会事務局編集 2023年10月発行

日時： 2023年9月16日(土)～17(日)

場所： 万座温泉「日進館」

担当： 府中メディカルカフェ（東京）

メディカルカフェ チェレステin 白沢（群馬）

主催： がん哲学外来市民学会

アドバンスコースの意味と目的について

東海大学医学部血液・腫瘍内科学客員教授

安藤 潔

がん哲学外来コーディネーター養成講座は受講生が100名を超えた頃から各会場の収容能力の問題から参加が3回までとなりました。そこで認定コーディネーターの自己研鑽のためのアドバンスコースが2016年から開催されこととなりました。これまでのアドバンスコースを以下に紹介します。

第1回（2016年）東京 「コミュニケーションの基礎（安藤）とカフェ参加者アンケート結果（横山）について」

第2回（2018年）万座 「がん哲学外来認定コーディネーターに求められること」

第3回（2019年）小諸 「がん哲学外来カフェのニーズと課題、そして未来」

第4回（2021年）金沢 「死との共生を考える」 ZOOM開催

第5回（2022年）神戸 「自分マップ」

養成講座の目的がカフェの場作りや共感・傾聴能力を主としていることに対して、アドバンスコースでは認定コーディネーターの自己研鑽が目的となっていることが以上の歴史からも理解できます。

認定コーディネーターの皆さんは、カフェを運営する体験、自ら闘病する体験、大事な方の闘病を見守る体験、などさまざまな体験をお持ちです。またカフェに集まる参加者も対話のなかで自らの体験を言葉にしたり、他者の体験を傾聴したりするために参加されます。その中でさまざまな気づきが生まれます。そこで第6回のアドバンスコースは「体験を言葉にする・体験を伝える」をテーマとしました。

「万座温泉」の自然の中で、ゆったりと流れる時間の中で、大切な自分の体験を言葉にする、そして伝える2日間にすることができたことは参加された方の感想で伺うことができました。

丹羽陽子

体験を言葉にする時間と、それを伝える時間。この2つの時間を通してその人がこの場に立ち現れることに感動した2日間でした。ご自身の体験を掘り下げる時間も、前に立って話す姿も、実にその人らしさがあって引き込まれました。皆さんそれぞれの体験と一緒に旅した感覚が残りました。ご一緒させていただき、ありがとうございました。

がん哲学外来メディカルカフェ チェレステ in 白沢(群馬県)

小野仁美

ただ、自分の体験したことを話せば良い、と言うのではなく、丹羽陽子さんの「体験談を言葉にする。そして体験を伝える」とても明確なレクチャーを受け、皆さんがご自身の体験を深く掘り下げ、ご自身の言葉で伝えられた体験談。その人らしさがそのまま伝わるその人の選んだ言葉は、私をその情景の中に引き入れてくださり、そこにあるのは感動だった。

「体験が人の心を動かす。そして行動へと誘う」それを実感した日でした。

がん哲学外来府中メディカルカフェ(東京都)

吉田 泉

軽井沢駅から日進館に向かうバスの中で、背負ってたデイパックが無い事に気づきました。どこで無くしたのか分からない、自分の認知機能低下っぷりに驚くやらがっかりするやら…。夜にやっとJRの忘れ物係に電話がつながり、新幹線の棚に置きっぱなしだった事が判明。

帰りの軽井沢駅で着払いの手続きをするつもりが、渋滞で予定の新幹線に間に合うかどうかの手に汗握る状況に！焦ってる私の訳を知ったKさんが、代わりに手続きをしてくださると言ってくれました。バスは出発5分程前に駅に着き、重いスーツケースとKさんとダッシュで階段を走り、改札の駅員さんに事情を話し、手続きはKさんに託して大急ぎで階段を駆け下り、ギリギリで新幹線に乗ることができました。2日後、無事にデイパックが我が家に届きました。Kさん始め、ご心配くださった皆様にご報告と感謝を申し上げます。どうもありがとうございました！

以下五十音順に掲載

アドバンスコースで出会った素晴らしい仲間

がん哲学外来カフェ in 万座(群馬県)

市村雅昭

旅行者は都会から4～5時間かけて万座に来る途中、標高差1800m気温気圧の変化を肌で感じ、目から大自然の樹木の佇まいを、耳からは小鳥たちの囀りを聴く等で心身ともにリラックスされた気分になります。そこで自然湧出の濁り湯に浸かると、心は別天地です。ノーストレスの世界です。

この万座温泉日進館で開催されたアドバンスコースでは16:00から翌日の13:00迄ビジネス界を始めあらゆる分野でご活躍のコーチングの講師丹羽陽子さんによるレクチャーの下、「体験を伝える・言葉にする」を学びました。

看護師(東京都)

上杉有希

コロナ禍で、職場ではコロナ対応の日々。三年間がん哲に参加できなかった私は、浦島太郎状態。覚悟し、せめて日進館の温泉は楽しもうと参加しました。今回の課題は、自分の体験を伝える。私の頭は、すっからかん！旧知の方々にお会いして、記憶が戻ってきたものの、「それはあなた自身の体験ではない」と。結局私の選んだ題材はコロナでした。今の自分と向き合い、「ここがあってよかった。私の居場所」という題でお話しさせていただきました。「がん哲は夢じゃなかった！」またこの場に戻って来られた事、みなさんにお会いできた事に感謝します。

がん哲学外来 しろいカフェ(千葉県)

大友由美子

体験を伝えようと思うとつい長くなってしまいました。『一番伝えたいことは何?』という適切なアドバイスをもらい何とか完成できました。ありがとうございました。

また、皆さんの体験を聞いていたら、種類は違えど人の心を揺るがすということを実感しました。カフェでも参加者の体験を引き出していけたらと思います。最後になりますが、皆様に誕生日をお祝いしていただきありがとうございました。サックス最高でした。

佐久がん哲学外来ひとときカフェ(長野県)

片桐孝子

今回の学びは互いの体験談をこれでもかというくらいブラッシュアップして語り合う中で、相手も自分もとても大切な存在に思える時間でした。アドバンスコースの世話役(企画)は認定コーディネーターやカフェが中心で実施されます。今後もユニークなアドバンスコースが各地で実施されることを予感させる第6回アドバンスコースでした。

「伝える」と「伝わる」

G-AYA(群馬県)

片山和久

今回、2回目のアドバンスコースに参加した。安藤先生の冒頭の挨拶で若いころに患者さんとのコミュニケーションに悩んだことがコーチングに出会った契機だと話があった。「重い病で回復の見込みのない患者さんの部屋の前に行くと、なんと声掛けすればよいのか分からなくて怖かったよ」とお話ししてくれた。以前、私も同じ理由で自分自身の中でジレンマを抱えて、その答えを見つけるためにがん哲学外来市民学会に参加した。「どのように伝えればよいのか」「どのように伝わっているのか」、私はその答えの糸口を今回のアドバンスコースに見たような気がした。

23年の感想

新座志木がん哲学外来・カフェ(埼玉県)

岸尾 光

グループワークでは参加者各自が経験談を作り発表するという課題に取り組みました。私は10年前にカフェ開催を決断した時の体験を選びました。自分の経験した思いや感情、言葉や行動を「修飾語をつけず」に書き出して文章にしました。発表では原稿を淡々と読んだけなのに涙をこらえねばならなかったり、他の参加者と心のつながりを感じるような体験もしました。カフェを始めた時の新鮮な気持ちを思い出し今後のカフェ運営にも役立つ学びでした。

アドバンスコースに参加して

福井県済生会病院メディカルカフェ・浅井三姉妹がん哲学外来(福井県)

車屋知美

「体験を言葉にする、伝える」というテーマに惹かれて参加しました。皆さんの前で発表する自分の体験の内容が抽象的になり悩んでいると、小野さんが話をしながら私の体験を具体的に引き出して下さり、自分の話したいことを引き出してもらえる体験もできました。参加された皆さんの発表を聴いて涙し、いろいろなお話もでき、良い意味で感情が揺さぶられる、普段体験できない密度の濃い時を過ごせて大満足の2日間でした。

まちなかメディカルカフェ in 宇都宮(栃木県)

嶋田弥生

リアルアドバンスは初参加でした。どんな事をするのか、ワクワクしながら会場入りしました。プチ修学旅行気分でもありました。「体験を言葉にする・体験を伝える」というテーマで、人の言葉ではなく、自分の言葉で語る事の意味、自分は何を語りたいのかを改めて問われた瞬間、時間が止まったような感覚を覚えました。きっと脳内革命が起きていたのだと思います。学ぶだけではなく、自分で考える時間がとても貴重だと感じた2日間でした。感謝でいっぱいです。

がん哲学外来@川越のぞみカフェ川越のぞみカフェ(埼玉県)

高橋直美

今回アドバンスが万座温泉であると聞いてすぐに申し込み。軽井沢駅からバスに揺られ、着いたらすぐに温泉へ。白い湯に肌がスベスベになり、食事也大満足。コミュニケーションの学びは、自分の伝えたいことを400字にまとめ、3分で原稿見ないで発表すること。最後まで文字数が絞れず苦戦。翌日は何とか時間内でクリアし他の方の話に涙が止まりませんでした。グループの人達の指導と応援に感謝でいっぱいです。来年も今から楽しみです。

新座志木がん哲学外来・カフェ(埼玉県)

中村康子

「体験を言葉にする・体験を伝える」をテーマに丹羽陽子先生からレクチャーを受ける。いかに相手に伝えられるか、いかに自分を解ってもらうか。これは人生において大変重要であることに今更ながら気付いた。小野仁美コーディネーターに実際の指導を受けながら、自分の体験をまとめる。今迄自分がどれだけ具体性の無い、抽象的な解りづらい話しばかりしてきたかを嫌と言うほど思い知った。コンサートをキャンセルして参加した価値があった。

仲間に感謝

まちなかメディカルカフェ in 宇都宮(栃木県)

羽石洋子

今回の研修テーマ、自らの体験を言葉にして、伝わる文章を作成し発表することは難しい作業でした。しかし、皆さんの体験発表は、場面が目に浮かぶ感動する内容であり、たくさんの気づきを頂きました。自己の役割について考える機会となり、今回の学びを今後のカフェの運営に役立てていきたいと思えます。研修内容、万座温泉日進館のおもてなし、温泉とおいしい食事は大満足、有意義な2日間でした。ありがとうございました。

アドバンスコースに参加して

柏がん哲学外来(千葉県)

福原俊二郎

今回のアドバンスコースでは、自分自身の様々な体験を振り返り、その変化や成果を思いつく限り自由に書き出し、発表しました。

日々、社会の歯車に巻き込まれている私たちにとって、このような体験談ワークシート作成は、コーディネーターの資質向上に極めて有益だと思えました。小生は、自分の使命を再確認。各地のがんカフェの皆さんと庶民の芸術、落語を通して免疫力を高めるサポートをします。祝福亭福助を呼んで下さいね。

がん哲学外来永福南カフェ(東京都)

棟方真弓

初めての万座日進館&アドバンスコース、標高1800mでの研修は心身ともに刺激の多い2日間でした。

体験を言葉にする・伝えるというのがテーマで、3分間で自分の感情をのせ、しかも原稿を見ないようにしてスピーチするのは、ホント難しい!!

フリーズした頭をムチ打ち、あーでもないこーでもないと考えて寝不足になりましたが、貴重な機会でした。

コーディネーターの仲間との出会いにも励まされ、終わった後には思い出が1つ増えました。

アドバンスコースに参加して

目白がん哲学外来カフェ(東京都)

森 尚子

自分が一番伝えたいことを、言葉にして発表。自分にとって、一番伝えたいことはなんだろう。自分に問いかけました。その時に戻ると、さまざまな思いが甦りました。そして今の自分を、再確認することができました。アドバンスコースでは、懐かしい方々との再会、新しい出会いがあります。感謝と学びのの二日間でした。また皆様と、お会いできます日を楽しみにしています。



<次回アドバンスコース担当カフェより>

24年に向けて

新座志木がん哲学外来・カフェ(埼玉県)

岸尾 光

2024年アドバンスコース担当カフェの新座志木がん哲学外来・カフェの岸尾です。新型コロナウイルス感染症拡大の中で、私たちはカフェを通して「つながる」ことの大切さを再確認しました。一方その苦しい時を経て新しいカフェの形も見えてきました。コーディネーターの皆さんも同様の経験をされたと思います。そこで来年はお互いのコロナ過での体験を共有したりカフェを介してのつながりについて考える機会になればと思っています。場所は担当地区の埼玉県の川越市（オンライン参加も可）を予定しています。詳細は追ってお知らせします。皆様のご参加をお待ちしています。